

中学2年生は14歳になる学年です

昔の人は14歳(頃)になると、大人になるための儀式を行いました。元服(げんぷく)といいます。服や髪を改めて見た目が大人になるばかりではなく、成人として恥ずかしくない行動や態度をとることも求められました。武士の子は切腹の作法も習い、何かあれば自分で責任を取る覚悟をする必要もあったようです。

織田信長は13歳で元服し、14歳で初めての戦場を経験しています。しかも大将としての出陣です。時代や立場によっては、そのような行動をする力があり、そのような責任を果たすことが期待されるのが14歳という年齢なのです。

朝は起こされないと起きない、家の手伝いもせずにゲームばかりしている、人に言われなければ勉強もしない、人の気持ちも考えずにケンカやイジメをしている、そんな子供っぽいことをしている年齢ではありません。少しずつ自分の生き方について、真剣に考えてみる時間を持つようにしましょう。

だから南二中でも、14歳(中学2年生)で勤労留学が予定されています。今年は感染症の影響で実施が難しい状況ですが、可能な限り工夫して、将来の職業や進路に関する学習を進めていきたいと考えています。

「はたらく」を漢字で書くと「働く」ですが、「傍楽」という当て字で表現されることがあります。「傍(はた。そばにいる人)が楽になるように(または楽しくなるように)動くこと」という思いが込められた言葉です。そんな仕事ができるようになったら、一人前の大人といえるでしょう。

そのためには、気づき・考え・実行する力が必要です。周りに気を遣い、人の役に立つ方法を考え、実行する力を身に付けるのです。急には出来るようになりませんから、失敗の許される学生のうちに積極的に動いてみることです。心がけて生活していれば、必ず力がついてきます。みなさんが社会に出る頃には、大きな差がついていることでしょう。

南二中の教育目標「たくましい人」が目指しているのは、正に「傍楽」ことができる人だと考えています。たくましさの中身は、強さと優しさだと教えてきました。この優しさは、周りの人を楽にしたいという配慮の気持ちといえるでしょう。でも優しさだけで、人を楽にしたり楽しくしたりすることはできません。医者、警備員、お笑い芸人、スポーツ選手、受付、清掃員、運転手・・・どんな職業について考えてみても、専門的な能力や忍耐力が必要なことがわかるでしょう。

東京大学の玄田有史先生は「14歳が岐路である」とおっしゃっています。あなたたちが、将来どんな大人になるか、どんな人生を送るか、その分かれ道が14歳の過ごし方にあるということです。

失敗をおそれず何事にも積極的に挑戦し、自分の好きなもの・得意なものを見つけていきましょう。学校生活の中には、多くのチャンスが転がっています。授業、行事、当番活動など、目の前のことを一生懸命にやってみることで、成長期のみなさんは自分でも驚くくらい、どんどん力を伸ばしていくことができます。逆にこの時期、プレッシャーから逃げて楽な生活をしていると、成長のチャンスを逃してしまうこととなります。

一方14歳は、思春期ど真ん中です。「中二病」なんていう言葉もあるくらい不安定な時期でもあります。心身が急激に成長し、戸惑うこともあるかも知れませんが、誰でも通る道です。何かあった時は一人で悩まず、身近な大人たち(思春期の先輩)に相談してみてください。私たち2学年の教師たちも、みなさんの力になりたいと考えています。